

●トヨタ自動車交付金助成申請提出しました。6日 申請目的はイタセンパラ復活への取組 世界に名だたるトヨタ自動車の交付金審査を通過することが23年間の大きな夢で、幾度か申請を行いました。しかしいずれも採用されませんでした。今回太田敏之さんの新加入を迎え、結成25周年記念事業としてイタセンパラ(天然記念物)の復活を目指すことで申請しました。いままでの実績はありませんので、審査の通過は無理を承知で声を上げることに意義があると考えています。この取り組みにご興味と関心を持っていただける「市民の方々の集い」を行い、一歩足を踏み出しましょう。

●木津川花散策8日 安福寺 首洗いの池泉橋寺 石仏 開催連絡が週刊ニュースによる広報になってしまいご参集がありませんでした。お茶摘みが行われる時期が最も新芽が成長する時期になります。少しして野草も様々な花を付けます。そしていち早く実をつけます。調査観察の時期の適期となってきます。そこで例年木津川堤防を舞台に花散策を取り組みますが、今回は広報の期間が短くて、ご参加者がなく、予定の全コースを写真を撮りながらめぐりました。気楽に思うまま散策できる時間になりました。それでも小雨が降り、時には傘が必要になる天気でした。私にとって心から満足のできる数少ない時間になりました。ここでの教訓を生かして次年度には充実した楽しい取り組みに改善したいものです。堤防では小さな群落でしたがウツボグサが紫の新鮮な色で際立っていたのが印象的でした。

●第2回親子で遊ぼう学ぼう魚とり9日 三日前に久しぶりに雨が降り作物を潤しました。木津川の水位は高くなりましたが、翌日には元通りに戻っていました。しかし、一時とはいえ水位が高くなったので河原は大きく荒れて、昨年とは打って変わっていました。魚の捕れそうな場所はすっかりなくなっています。地形が変わってしまいました。加えて、濁った水なので、少し深い場所では足元が確認できませんでした。こういう状況は予想されていたので、実行不可能との判断をしました。連絡通報を行いました。参加希望者もおられたので、当日の朝8時にスタッフが集合して現場を確認の上で、中止を決定しました。

●京都府交響プロジェクト交付金申請書の申請準備を行っています。昨年迄続いてきた地域力再生プロジェクト事業から名前が変わって交響プロジェクト交付金となりました。そして交付申請のための書類もより詳しく記載しなければなくなり、かなりの専門性や事業への深い識見が求められています。里山の会は「山城の歴史と木津川の生態を知り、激しい変化をする木津川に対して、伝統河川工法での実践を通じて普及と啓発を図り、地域再生に取り組もう」のネーミングを掲げ、1「京都子どもの水辺交流発表会」2「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」3「中聖牛の設置」4「竹蛇籠の製作講習会」5「普賢寺地域「里山農園」の生き物写真集の発行」6「木津川はどんな川の地域説明会」を柱に申請する準備を行っています。会員各位の要望があればお聞きしますので、時間はありませんが要望をお寄せください。お待ちしております。

●蛍の集いと里山音楽会15日(土) 今年の集いの中心的な執行者は金田さんと太田さん、大村さん、森島さんで開催していただくことになりましたので、苦心に苦勞を重ねられています。前日の準備計画や当日プログラム、里山農園一帯の草刈りや通路の整備と安全対策、主催者になると微に入り細に入り注意を払わなくてはなりません。里山の会の行事に参加して、不慮の事故に遭ったとなると大変です。考えられる安全策が必要です。特に白土山洞穴ルートへのミニ・ハイキングは魅力ある楽しい取り組みですが、初めての取組なので安全対策に気を遣うところです。また最終盤には暗くなってからの移動になりますので、特に気を遣うところです。里山音楽会では、これまで難しいとされていたキーボード演奏に取り組みますので、お楽しみください。大正琴、バイオリン演奏とバラエティ豊かな楽しい取り組みになりました。ご期待ください。また里山クイズとして里山農園で作業していただいている森島さんが三択クイズをされる初挑戦なので期待が膨らみます。人の手が加わらない自然のまま成育が続いてきた蛍に出逢えるのだろうかとお楽しみにしています。特製の里山カレーをご賞味ください。

●**年度活動報告書を提出** 法務局と京都府へ総会議事録及び役員変更届を提出 6 日 NPO資格を得て諸団体と対等のお付き合いができるようになり、受注作業も頂けられるようになりました。20 年来の実績が信用になっています。年度末には年間活動を総まとめして、総会決議を京都府に提出することになります。任意団体ならここまで会計や活動実績の公表までには至らないのですが、一般市民にすべての公開が義務付けられていますので、事務処理が大変です。信用を得るためにはこれが必要なのでしょう。新理事長に就任された深田さんは法務局への年度総会議事録と役員変更の書類の作製から届け出までの一切の作業を終了いただきました。続いて京都府への提出書類を整えて提出も終わらせていただきました。机上での記録整理やまとめ等の事務処理は非常に困難です。まして第一線現役から遠ざかると人材確保が難しくなっています。今回も深田様には京都市内の荒神口の法務局迄何回も通わなければなりません。ご苦労になっています。

●**朝市 9 日に参加** 里山の会は助成金を受けての活動団体ではありません。財源の中心は会費と農園での栽培物品の販売や調査観察の結果をまとめた書籍や刊行物の販売で得る財源で運営しています。数年前から田辺府営団地連合自治会の呼びかけで、農産物の朝市販売にご協力をさせていただき、ささやかな財源確保を得ています。第 2 第 4 日曜日の朝市に出店し、朝採れ野菜として歓迎いただいています。今日ではすっかりお客様とも顔なじみになり、農園に直接採取に来ていただくこともあります。野菜の端境期でいい品物が提供できない時にも会話が弾み、元気をもらい、待っておられるのだからと栽培に意欲がわきます。

●**蛍の集いと里山音楽会 15 日(土)** 集合は 15 時からです。里山の会の初夏の定番イベントは多くありますが、初夏のころの里山音楽会と蛍の夕べは人気のある取り組みです。これまでで最大の参加者は炭焼き釜での 60 人を数えました。時期は常に梅雨に当たります。良く雨になり中止もたびたびでした。それで少雨決行ができるようにと教育棟を建設して、少しの雨によって期待のイベントを帳消しには出来ないと大屋根の施設を手作りで実現しました。ここを使って蛍の出現時刻まで里山音楽会や里山農園の自然観察や工作を取り組んできました。昨年秋に白土山洞穴へのルートを開き、新たな魅力アップになりました。里山農園を含む普賢寺地区は、都市化が進む京田辺市の中で残された自然環境が特に豊かな地域です。また周囲には大御堂の国宝や都谷や公家谷と地名に残っているように日本の都が存在していたともいわれる歴史深い場所です。人の手が加わらないで蛍が見られる所で、日本の国蝶オオムラサキやヤマトサンショウウオ(カスミサンショウウオ)の生息が里山の会の手で確認されました。豊かな自然に触れられる貴重な地域を大切にしたいと思っています。実感してください。

●**第 3 回親子で遊ぼう学ぼう魚とり 22 日(土)** 山城地域全体から参加ができる 2 回目の受付中です。先着 50 組の受付となります。こぞってご参加ください。なお 7 月の第 4 回の取組は宇治・城陽・旧綴喜郡・旧相楽郡の受付制限となっていますのでご注意ください。今年からメールでの申し込み制も取り入れました。往復はがきでの申し込みは従来通りです。集合時間は 9 時 30 分で、山城大橋西詰下の野球場駐車場としています。水量や湯水、熱中症発生等安全面の配慮もありまして、当日の天気状況によって、やむなく中止も考えられますので、お含みおきください。応募に当たっては世話役の引き受け者を最優先採用としていますので、御理解ください。詳細はホームページをご参照ください。特に大きく変化しましたのは、メールでの申し込み受付です。大いにご利用ください。

●**オオムラサキの一週間連続観察会** 6 月 30 日～7 月 6 日 約 4 年間オオムラサキの成虫の確認が出来ませんでした。冬の幼虫観察会ではエノキの葉っぱめぐりで幼虫を数多く確認できていますが、夏の観察会での成虫発見は残念な結果になっています。昨年は台風によって、コナラやクヌギが数多く倒壊しました。以前からナラ枯れ病によって、コナラが壊滅状態になっており、樹液の成木が激減しているように見えます。今年はこの影響がもろに影響するのではないかと危惧しています。観察棟付近ではトラップ数の増加に加えて、設置時期も 2 週間ぐらい早め、調査観察期間を長くしようと世話役の金田さんと相談をしています。そして、これまでの一日のみの観察会から、1 週間連続の観察期間に変更しました。折角準備したトラップの効果が発揮されている期間の取組と考えました。今年はぜひ成虫の確認が出来ればと思います。多くの観察者が必要です。ご参加ください。